

Sustainability

サステナビリティ

心豊かな社会のために、私たちJTグループができること。
その取り組みの数々をお伝えします。

CONTENTS

新着情報 ▾

取り組み ▾

ジャーニー ▾

JT Group Purpose

心の豊かさを、 もっと。

人を想い、地域とのつながりや地球を大切に、持続可能な社会を築いていくことで、
ともに成長していきたい。そんな想いから、JTグループは事業を通じて、さまざまな取
組みを行っています。

JT Group Purpose

JT Group Materiality

JT Group Sustainability Targets and Results 



トップマネジメントメッセージ ▸

「心の豊かさ」を届けるJTグループの想い。



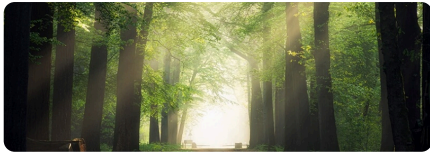
マテリアリティとサステナビリティ ▸

JTグループの持続的な成長を実現させるために。

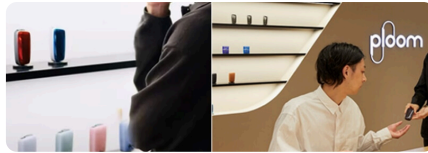
Materiality and Sustainability

5つのマテリアリティと サステナビリティの取り組み

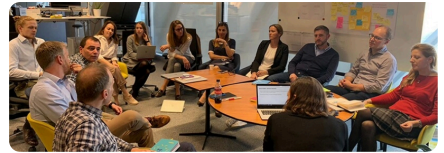




自然との共生 >



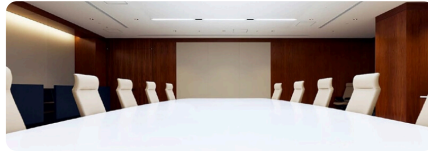
お客様の期待を超える価値創造 >



人財への投資と成長機会の提供 >



責任あるサプライチェーン
マネジメント >



良質なガバナンス >

Progress

目標に対する進捗

[JT Group Sustainability Targetsに基づく2024年実績](#)  PDF: 2,067kb

たばこ事業の サステナビリティ戦 略

Creating fulfilling moments.
Creating a better future.

たばこ事業



自然との共生

[環境に関する取り組み](#) >

お客様の期待を超える価値創造 (RRP)

[RRPに関する取り組み](#) >

※ たばこ事業における「お客様」は喫煙可能な成人のお客様を意味します。なお、喫煙可能年齢は、各国の法令により異なります。日本では20歳未満の方による喫煙は、法律で禁じられています。

人財への投資と成長機会の提供

[JTグループの人財マネジメント](#) >

[JTグループの労働安全衛生](#) >

責任あるサプライチェーンマネジメント

[持続可能なサプライチェーンの構築](#) >

[JTグループの調達方針と規範](#) >

[葉たばこの調達](#) >

[葉たばこ以外の材料品、その他の製品やサービス](#) >

加工食品事業の サステナビリティ戦略

食事をうれしく、食卓をたのしく。

加工食品事業



サステナビリティ ジャーニー

世界のサステナビリティにまつわるストーリーをお届け。

サステナビリティジャーニー



News Release

サステナビリティの新着情報

[サステナビリティ新着情報/プレスリリース一覧](#)

2025
12.23

プレスリリース

● サステナビリティ

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンとの間で
災害支援に関する協定を締結
人命捜索救助隊の育成支援および災害発生時の被災地支
援について、
世界各地で頻発する大規模災害等への対応を見据え、支
援内容を拡充

→

2025
12.04

新着情報

● サステナビリティ

「令和7年11月18日 大分市佐賀関の大規模火災」に対す
る支援について

→

2025
09.26

新着情報

● サステナビリティ

「令和7年 台風第15号等に伴う災害」に対する支援につ
いて

→

2025
09.01

新着情報

● サステナビリティ

「令和7年8月6日からの大雨」に対する支援について

→

2025
07.18

新着情報

● サステナビリティ

統合報告書2025を公表しました

→

その他

価値創造プロセス >

JTグループの価値創造プロセスについてご紹介しています。

非財務情報の開示 >

JTグループが参照しているガイドラインについてご紹介しています。

統合報告書 >

2019年度より、財務情報・非財務情報をあわせた、統合報告書を発行しています。

社外からの評価 >

JTグループのサステナビリティの取り組みに対する社外からの評価をご紹介します。

第三者検証 >

統合報告書等、Web上で掲載しているデータの一部は、第三者による検証を受けています。

サステナビリティアーカイブ >

過去のサステナビリティコンテンツをアーカイブしています。

ステークホルダー・エンゲージメント >

主要なステークホルダーとのエンゲージメントについてご紹介しています。

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

SPECIAL CONTENTS

JTで芽吹く、
心の豊かさへの取り組み記録。



あなたに知ってほしい JTの取り組み

ころねート一覧



#働く #共創する

届け！葉たばこ農家の想い——生産者と消費者をつなぐ「Farmersマルシェ」を現地取材！



#共創する

この大会を、「最高の4日間」にするために——「ゴルフ日本シリーズJTカップ」への想い



#共創する

あなたにとって「心の豊かさ」ってなんですか？徹底的に考え抜く、JTグループ社内イベント「Dサミ」とは!?



#食べる #暮らす

テーブルマークの冷凍うどんは誕生から50年！長年愛される、おいしさのヒミツとは!?



#共創する #学ぶ

バレーボールがつなぐ人と人——選手がファンに伝えたいこと



#共創する #働く

同僚や友達の、意外な一面を発見！「Hello JTG:) たいせつな人DAY」に潜入！

トップマネジメントメッセージ

CSOメッセージ



自然や社会が持続可能であって初めて、人の暮らしや企業の活動も持続可能に

執行役員
Chief Sustainability Officer
妹川 久人

サステナビリティの考え方

JTグループは「4Sモデル」を経営理念としています。「4Sモデル」の追求は、「お客様を中心として、株主、従業員、社会の4者に対する責任を高い次元でバランスよく果たし、4者の満足度を高めていく」という考え方です。当社グループでは従来から様々なステークホルダーの皆様とエンゲージメントしながら事業を営んでおり、これはまさにサステナビリティの考え方に通じています。「自然や社会が持続可能であって初めて、人の暮らしや企業の活動も持続可能となる」といった想いが根底にあります。

例えば、我々の中核事業であるたばこ事業にとって、葉たばこは最も重要な原料のひとつです。葉たばこ耕作地の自然環境や葉たばこ耕作コミュニティがサステナブルであることは、中長期で安定的な葉たばこ調達のとらえであり、我々の事業活動が持続的である上で欠かせません。また、我々の事業活動をドライブする中核に「人財」があります。グループの従業員やステークホルダーの皆様の地域社会の状況が安定しており、サステナブルなものであってはじめて、我々の事業の持続的な活動が可能となります。自然や社会、人の暮らしや企業の活動、全てはつながっており相互関係にあることを意識し、CSOとしてJTグループのサステナビリティに取り組んでいます。

サステナビリティ戦略の全体像

JTグループでは、社会とそこに存在するJTグループの事業が持続可能であるよう、当社グループの目指すべき方向性を示す「心の豊かさを、もっと。」といったJT Group Purposeを掲げています。「4Sモデル」の追求を経営理念とし、グループのパーパスを起点とした優先的に取り組むべきグループのマテリアリティ（重要課題）を特定しています。具体的には、「自然との共生」「お客様の期待を超える価値創造」「人財への投資と成長機会の提供」「責任あるサプライチェーンマネジメント」「良質なガバナンス」の5つの課題群を「JT Group Materiality」と定めています。



また、JT Group Materialityを踏まえた具体的な目標や取り組みを「JT Group Sustainability Targets」として2024年に策定し、25項目のターゲットを設定しています。JT Group Purposeを起点としたJT Group Materialityと、それに紐づくJT Group Sustainability Targetsがグループのサステナビリティ戦略の骨格です。サステナビリティ戦略の策定と運用には、取締役会が関与する体制を執っており、取り組みの進捗や結果についても、適宜、ウェブサイトや統合報告書等を通じてステークホルダーの皆様へ報告しています。ターゲットについては毎年レビューを実施し進化させており、2025年度においてもターゲットのレビューを実施し更新を図りました。

JT Group Sustainability Targets

2024年に25項目からなるJT Group Sustainability Targetsを策定しています。JT Group Materialityの一つである「お客様の期待を超える価値創造」に紐づく、かつグループの中核事業であるたばこ事業に関連するサステナビリティターゲットでは、従来からの「RRP展開市場の拡大」といった目標に加え「、リスク低減に係る科学的知見の発信」といった新たなターゲットを設定し、RRPへの注力を加速化しています。

また、JT Group Materialityの一つである「自然との共生」に関連し、近年重要性が高まっている生物多様性に関するターゲットを策定しています。生態系影響評価の実施を掲げており、たばこ事業でバリューチェーン全体における生態系影響評価の実施に取り組んでいるところです。我々グループが生態系に与えるインパクトは、同じたばこ事業でも地域毎で異なるため、今後はより地域毎でのソリューションを見出していくことが重要です。本社からトップダウンで網をかけるのではなく、各地域・各オペレーションの解決策を考え、それぞれで自ら推進していくよう、CSOとして支援していきたいと考えています。

今回はJT Group Sustainability Targetsの進捗を報告する初年度です。中長期のターゲットが大半なので、単年度の実績で進捗の全ては語れないですが、概ね順調な滑り出しと認識しています。また、ターゲットに取り組む上での推進体制が徐々に整ってきた手ごたえを感じています。

例えば「自然との共生」に紐づく“気候変動”に関する目標のマネジメントの質と量の進化がありました。2024年におけるGHG排出量の削減目標の進捗をみると、Scope1&2の削減は順調に推移しました。また、バリューチェーン全体での対応が伴うことから課題であったScope 3については、主要サプライヤーに対して科学的知見と整合したGHG排出量の削減を奨励するなど、データ把握に向けての取り組みが進みました。JTグループでは、気候変動への対応の目標として、2030年までにJTグループの事業においてカーボンニュートラルを実現し、2050年までにバリューチェーン全体でGHG排出量をネットゼロにすることを目指しています。目標に向けての取り組みの一環として、2022年にSBT(Science Based Targets)イニシアティブから「1.5℃目標」の認定を取得しました。また、2024年9月には、SBTiに対し、「ネットゼロ目標」の認定取得に向けた申請を実施しました。

また、我々グループのサプライチェーンマネジメントにおいて“人権尊重”の取り組みは欠かせない課題です。従来から人権デューデリジエンスには真摯に取り組んでおり、JTグループでの人権尊重への対応はもとより、サプライチェーン全体でのデューデリジエンスを積極的に展開してきました。コロナ禍で人の移動が難しかった期間においてもオンラインの対応等でその歩みを止めることなく、2024年末時点でJTグループ全体として16カ国で人権影響評価を、18カ国で自己評価質問票による分析を完了しました。

取り組みを支える体制

サステナビリティ戦略の策定と運用、ターゲットの更新については取締役が関与するガバナンス体制をとっています。執行レベルではJTグループのサステナビリティ課題を議論する場として、2020年から定期的にサステナビリティ検討会を開催しています。この検討会は、CSOの私自身が議長を務め、JTグループの各事業・コーポレート部門の責任者が参加する会議体です。

サステナビリティ検討会

- 議長：Chief Sustainability Officer
- 検討会メンバー：
 - 各事業の責任者
 - 各JTコーポレート部門の責任者

2024年はサステナビリティ検討会を3回開催し、JT Group Sustainability Targetsの更新、気候変動に関する各種取組みと目標に対する進捗、人権尊重の取組みとデュー・ディリジェンスの実施状況、EU CSRD（Corporate Sustainability Reporting Directive：企業サステナビリティ報告指令）への対応、非財務データマネジメント、ステークホルダーエンゲージメントといった課題やテーマについて、議論と情報共有の場を設けました。

なお、検討会で議論された内容は、適宜社長および取締役様に報告しています。

中長期のサステナビリティ課題

2024年は各国・各地域での政情不安や紛争が継続しました。また、2024年は選挙の年でもあり、米国や英国では政権交代があり、JTグループが本社を置く日本でも内閣交代がありました。各国・各地域での不安定な状況は2025年も継続し、主要国での政権交代に伴う政策転換の影響は否めないでしょう。そのような状況ではありますが、我々のサステナビリティに対する考え方やスタンスは従来通りです。これからも「自然と社会が持続可能であってはじめて、我々企業や人々の生活は持続可能」という根底にある考え方は変わりません。

将来を見据えて、中長期での課題にも積極的に取り組んでいきます。サステナビリティの取り組みにおいて我々が扱う様々な情報やデータ、いわゆる非財務情報やデータについては、開示する情報やデータはもとより、上手く活用することで、新たな付加価値が生まれると考えています。我々グループのパーパスである「心の豊かさを、もっと。」の提供につながるような、非財務データの活かし方を検討し、非財務データマネジメントの構築に取り組んでいきます。

今後は、各国でサステナビリティ開示規制が施行される予定です。欧州に拠点を持つ規模の大きいグローバル企業は、CSRDでの報告に向けて準備を進めており、欧州にたばこ事業の本社を置くJTグループでも対応を進めています。CSRDについては開始時期が遅れることとなりましたが、日本においてもサステナビリティ基準委員会（SSBJ）により公表されたサステナビリティ開示基準への対応が迫っています。サステナビリティの情報を定性・定量的に伝えていくことが求められており、正確で質の高いデータを効率的に集約・管理し、発信していくことの重要性はこれまで以上に高まっていくと考えています。

加え、個人的には自社をとりまく社会環境との関係性において、いかなる資本のやり取りが発生し、何を活かして何を還元しているかといった関わり、繋がりをもっと広く認知できないか、というテーマに関心を持っています。JTグループをはじめ、企業は自然や社会のリソースを資本として享受し、それを活かし、或いは何らかの価値に転換し、最終的には自然や社会へ戻していく、といったことを繰り返しているはずですが、サステナビリティとは、その一連のサイクルを保全あるいはプラスのシステムとして循環させることかと。それらを具体的に、可能であれば定量的に可視化したいと考えています。それができると、一見単なるコスト負担だと捉えがちな様々な取り組みや挑戦ですら、違った視点で評価できるでしょう。「少し先の未来で、実はこういう価値につながる」と捉えると、例えば従前にはない意思決定が生まれるかもしれません。このような挑戦は我々単独で推進することは難しいので、知見をお持ちの企業と協力して進めていきたいと考えています。

事業環境の変化に迅速・柔軟に対応しながら、今後も、真摯に各課題に向き合い、パートナー企業やステークホルダーの皆様との共創を通じて「心の豊かさ」を育んでいきます。

JTで芽吹く、
心の豊かさへの取り組み記録。



あなたに知ってほしい JTの取り組み

ころこノート一覧



#食べる #暮らす

有名店とのコラボ冷凍商
品開発の裏側を聞いてみ
た！



#食べる #守る #暮らす

おいしくなければ意味が
ない。冷凍ミール
「BEYOND FREE」は何
を超えようとしているの
か!?



#共創する #学ぶ

バレーボールがつなぐ人
と人——選手がファンに
伝えたいこと



#働く #学ぶ

バレーボール選手が、JT
で“会社員”に転身!?! —
アスリートが歩むセカン
ドキャリア



#学ぶ #共創する

地域の人々とのふれあい
が、自分たちのモチベー
ションに！ 広島サンダ
ーズ選手が抱く、地元へ
の想い



#共創する #働く

同僚や友達の、意外な一
面を発見！「Hello JTG:)
たいせつな人DAY」に潜
入！

マテリアリティとサステナビリティ

マテリアリティ

サステナビリティ
ターゲット

サステナビリティ
検討会

サステナビリティ
取り組み・2024年実績

当社グループでは、社会とそこに存在する当社グループの事業が持続可能であるために、当社グループの目指すべき方向性を示す「JT Group Purpose」を策定しています。

「4Sモデル」の追求を経営理念とする当社グループは、「自然や社会が持続可能であってはおぼろげに人の暮らしや企業の活動も持続可能となる」という考えのもと「自然・社会とそこに存在する当社グループの事業のサステナビリティ実現に向けた取り組みは、経営の根幹をなすもの」と認識しています。これを踏まえた、当社グループのサステナビリティ戦略は、JT Group Purposeを起点に、サステナビリティ経営の根幹となる5つの課題群を「JT Group Materiality」として特定しています。

また、当社グループとしての具体的な目標および取り組みについて、全24項目からなる「JT Group Sustainability Targets」を策定しています。これらサステナビリティ戦略の策定・運用には取締役会が関与する体制を執っており「JT Group Sustainability Targets」については、その運用の中で定期的な点検を実施しています。

当社グループは、社会とそこに存在する当社グループの事業の持続的な成長に向けて強くコミットし、サステナビリティ戦略のもと、JT Group Purposeの具現化に向けて、「心の豊かさ」という価値を提供し続けていきます。

JT Group Purpose	心の豊かさを、もっと。 Fulfilling Moments, Enriching Life				
JT Group Materiality	自然や社会と人の暮らしはつながっており、自然や社会が持続可能であってはおぼろげに人の暮らしや企業の活動も持続可能となります。JTグループはJT Group Purposeの具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくために、以下のマテリアリティ(重要課題)に取り組んでいます。				
					
	自然との共生	お客様の期待を超える価値創造	人材への投資と成長機会の提供	責任あるサプライチェーンマネジメント	良質なガバナンス
	自然環境に与える影響の改善に向けた取り組みを通じて、自然と人や企業の健全な関係性を保全	お客様の期待を超える多様な製品・サービスを創出	人材の多様性に着目した成長支援を含む人材への投資や、多様な個性がその能力を最大限発揮できる組織風土の醸成を通じた人的資本の拡充	人権尊重や自然環境保全などの多様化する社会課題への適切な対応を通じ、事業環境の急激な変化に耐える持続可能なサプライチェーンを構築	さまざまなステークホルダーの満足度を高め、信頼される企業体であり続けるためのガバナンスの充実
JT Group Sustainability Targets	マテリアリティに紐づく Sustainability Targets (24項目)				

JT Group Sustainability Targetsに基づく2024年実績は、[こちら](#)  をご覧ください。

[ページトップへ戻る](#) 

JT Group Materiality

当社グループでは2013年からマテリアリティ分析に取り組んでおり、社内外のステークホルダーへのヒアリングを通じて、2015年に初めてJTグループ全体を対象とするマテリアリティ項目を選定しました。

当初特定したマテリアリティからの外部環境や事業環境の変化を踏まえ、2021年よりマテリアリティの見直しを開始し

2022年の統合報告書においてグループマテリアリティの更新について報告しています。重要課題の洗い出しと分析、社内外のステークホルダーへのヒアリングを通じて、課題の特定と優先順位付けした上で、改めてマテリアリティマトリックスを作成し、JTグループのマテリアリティとして取り上げるべき5つの課題群をJT Group Materialityとして特定しました。

JT Group Materialityはダブルマテリアリティの考え方に基づき策定されており、持続的な成長にあたって、ステークホルダーや社会への重要度や影響度と、グループへの重要度や影響度を踏まえています。なお、一連のプロセスは、外部コンサルタントのアドバイスを踏まえて実施しています。

JT Group Materiality の策定プロセス

JT Group Materiality は、戦略担当者、ERM担当者及び外部アドバイザーから成るプロジェクトチームを編成し、以下の4つのプロセスにより案を策定しています。マテリアリティの改定については、最終的には取締役会の決議を得た上でJT Group Materialityとして特定しています。

フェーズ1：マテリアリティトピックスの洗い出しと作成

- マテリアリティの特定に資する外部環境の変化やJTグループのさまざまな事業課題を踏まえ、グループの持続可能な成長やサステナビリティ課題にインパクトを与えうるトピックスの洗い出しを実施
- SDGs、SASBやGRI等の各種サステナビリティ開示基準やフレームワーク、Enterprise Risk Management (ERM)*でのリスクファクター、同業他社のマテリアリティ等のさまざまな情報の調査・分析を通じて、トピックスを洗い出し
- * サステナビリティとリスク管理については、[第40期有価証券報告書](#)  ・P23・27へ

フェーズ2：ステークホルダーインタビューとデスクトップ分析

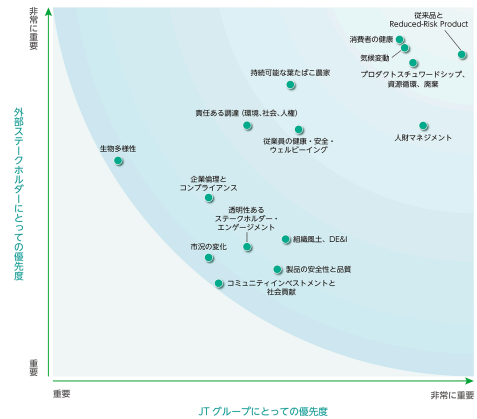
- 社内外のステークホルダーに対してフェーズ1で作成した各トピックスをベースにインタビューやサーベイを実施し、意見をヒアリング・集約
- さらに外部評価機関のレポート、グローバルメガトレンドやメディアレポート等の情報を含むデスクトップ調査を通じてトピックスの抜け漏れを確認した上で、社内外ステークホルダーにおけるトピックスを優先順位付け
- ステークホルダーにより、マテリアリティトピックスの優先順位が異なることから、評価の品質を担保するため、多数のステークホルダーからの意見をヒアリング

ステークホルダーへのインタビューおよびサーベイ、実施状況

- コーポレート・各事業の執行役員を中心に119人
- サプライチェーン、取引先、NGO、社外関係者 27件
- 投資家、銀行等 38件
- 従業員等 約450件

フェーズ3：マトリックスの作成と優先順位の可視化

- ・ 初回マトリックス同様、たばこ事業のマトリックスを策定し、それをベースに全社マトリックスを策定
- ・ 個々の課題とその重要性の可視化を企図し、ステークホルダーにとっての重要度や影響度といった優先度を縦軸に、JTグループにとっての優先度を横軸におき、マテリアリティピックスをマトリックスに反映



フェーズ4：課題群の特定

JTグループ・外部ステークホルダーの双方にとって優先度が高いものをJTグループが社会とともに持続的に成長するために優先的に取り組むべき課題と位置付けたうえ、課題感や対応の期待効果が近似するマテリアリティピックスをグルーピングし、環境保全、製品・サービス、人財、サプライチェーンマネジメント、ガバナンスにまつわる5つの課題群を特定

[ページトップへ戻る](#) ^

マテリアリティのレビュー

2023年下期から2024年上期にかけて、JTグループのサステナビリティ目標の設定と更新を踏まえ、外部コンサルタントやアドバイザーの助言を受けながら、マテリアリティの年次レビューを実施し、2024年上期の終わりにレビューを完了しました。さらに、2回目の年次レビューを実施し、2025年7月末に完了しています。年次レビューでは、外部アドバイザーからの助言やマクロトレンドのデスクトップ調査等を踏まえ、前年度と比較した際の事業環境の変化等確認しました。これらの外部要因に対し、我々の事業の状況や戦略を踏まえ、JT Group Materialityで特定した5つの課題群やマテリアリティマトリックスの各トピックの点検を実施しています。

マテリアリティについては毎年レビューを行うとともに、マテリアリティに基づいて設定したJT Group Sustainability Targetsについても定期的に更新を図っていきます。

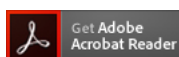
サステナビリティ検討会

JTグループのサステナビリティ課題を議論する場として、2020年から定期的にサステナビリティ検討会を開催しています。CSOを議長とし、JTグループの各事業・コーポレート部門の責任者が参加しています。2024年はサステナビリティ検討会を3回開催し、JT Group Sustainability Targetsの更新、気候変動に関する各種取り組みと目標に対する進捗、人権尊重の取り組みとデュー・ディリジェンスの実施状況、EU CSRD（Corporate Sustainability Reporting Directive：企業サステナビリティ報告指令）への対応、非財務データマネジメント、ステークホルダーエンゲージメントといった課題やテーマについて、議論と情報共有の場を設けました。なお、検討会で議論された内容は、適宜社長および取締役へ報告しています。

SUSTAINABILITY ADVISORY FORUM



[ページトップへ戻る](#) へ



Get Adobe
Acrobat Reader

PDFファイルをご覧いただくには、Adobe Readerが必要です。
Adobe Readerはアドビシステムズ株式会社より無償配布されています。

[Adobe Readerのダウンロードページへ](#) 〇

SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS SPECIAL CONTENTS

JTで芽吹く、
心の豊かさへの取り組み記録。



あなたに知ってほしい JTの取り組み

[こころノート一覧](#)



#学ぶ #共創する



#学ぶ #共創する



#暮らす #共創する

JTには、生命科学の研究 地域の人々とのふれあい
機関でありながら、一般 が、自分たちのモチベー
来館者に開かれた文化施 ションに！ 広島サンダ
設がある！ ーズ選手が抱く、地元へ
の想い

宇宙飛行士の歯磨き事情
が生んだ製品!? いつでも
どこでもオーラルケアで
きる「Chupica」が地上
に



#休む #暮らす

余暇時間をもっと豊かに！ JTが開発したアプリ、「Offly」「beSelf」「Habee」って？



#食べる #守る #暮らす

おいしくなければ意味がない。冷凍ミール「BEYOND FREE」は何を越えようとしているのか!?



#共創する #働く

同僚や友達の、意外な一面を発見！「Hello JTG:) たいせつな人DAY」に潜入！